



柿崎コミプラでの「ご意見を聴く会」も活発

柿崎コミュニティプラザでも市議会主催の「ご意見を聴く会」が11日、開催されました。柿崎、頸城、大湊の3区から8人の方が参加してくださいました。空き家の活用、処理、人口減少、議員定数などをめぐってたくさんの意見がだされました。議員定数を増やすべきとの主張は中郷区に続いて、柿崎会場でも出されました。初めて参加したという大湊区の女性の、「上越市は楽しいんだよと言えるようにしないとイケない」という発言が新鮮でした。以下は主な発言です。

- ・長野県南箕輪村では平成の大合併でも合併しないで頑張り、人口が右肩上がりが増えていていると聞く。視察に行ってもらいたい。
- ・キューピットバレイのスキーリフト整備も大事だが、いまの時代、発信の力を入れないと人が集まらない。
- ・挨拶ひとつとってみても、子どもよりも大人の方に問題があることが多い。毎朝、散歩しているが、挨拶しても3分の2の人が応えない。絵本をどう活用するか、大人がしっかりしないとダメだ。
- ・上越は観光に向かない市だ。通年観光に向けて外注で計画を立てるといいうが、よそ者をひっぱってきてプランニングするのではなく、地元の人間を活用すべきだ。
- ・4年ぶりに町内会の旅行を考えている。身近に訪ねるところがいくらでもある。手元を見直して探せば何かある気がする。
- ・観光客を増やすならまず「道の駅」だ。観光客を迎えたいならそれなりに考えて。
- ・県外各地から釣り客が上越の海岸に来ている。すごい数だ。釣り客は夜に来て、朝釣って、その日のうちに帰ってしまう。この客を引き留めれば観光につながる。

- ・少子高齢化が進み、子ども数が激減している。地域に愛着を持てるようにするにはどうしたらいいか。
- ・都会では空き家で事件が頻発している。上越市の危機管理はどうなっているか。
- ・町内会で空き家を独自調査している。要は管理をどうするかだ。
- ・空き家問題は全国的な問題だ。もっと国に目を向けて、国がどういう方針で行こうとしているか調べるべきだ。地域のことは世界のことだ。議論して、深めてほしい。
- ・住まなくなったら家を壊す、そのためにも子どもに壊す手順とお金を用意して教え込むことが必要ではないか。
- ・太平洋側では必ず大きな地震が来る。空き家を避難場所として登録し、維持費をいただくのがいいのではないか。
- ・先ほども友達と「上越市を盛り上げたいね」と話をしてきた。上越市は楽しいんだよと言えるようにすべき。楽しければ人は集まってくる。上越市に住んでいてこたえさんね、という作戦を練ってほしい。
- ・家族の話し合いで残るようにすることが大事だ。
- ・食糧危機対策が重要だ。コメは栄養のバランスがいい。ご飯と味噌汁、野菜を食べていけば、免疫力も上がる。
- ・地域協議会のなかから市議を28人選んでもらえれば、その地域のことが市政に反映されるようになる。
- ・議員はもっと増えた方がいい。
- ・議員の活動が目に見えれば、身近に感じられる。努力してほしい。
- ・まもなく謙信公生誕500年になる。具体的にどんなことを考えているか。



尾神岳の「みはらし荘」で食べた「山菜御膳」が好評



【ナツハゼ】 ツツジ科の落葉低木。漢字で「夏櫨」と書きます。昨年の秋にこの木の実と再会してから、ずっとこの花との出会いを楽しみにしていました。予想通り、ブルーベリーの花と形はそっくり、下向きで釣鐘型です。花期は5月から6月。花言葉は「飾らぬ美」。写真は、5月16日、吉川区代石にて撮影しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2110 2023.5.21

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七五七回 母がいない「母の日」

四月に母親を亡くしたばかりの恵さんから先日、「今年は母親のいない母の日となりますね」と言われ、ハッとしました。

確かに言われた通りです。母を亡くしたのは昨年一〇月でしたので、今年は母の日を迎えても、わが家でも母の姿はありません。ですから、母へのプレゼントを用意しても、「まあ、ありがとね」とか、「これ、どしたか」などといった母の言葉は聞くことができなうなりました。

恵さんのひとことで、「母がいない『母の日』」を意識することになりました。これまでそう大したことをしてきたわけではありませんが、「母がいない」ことを意識したことで、これまでの母の日の些細なことがとても懐かしく思えてきました。

もう何年前か前のことになりました。朝のうちは「母の日」のことが頭にあったのですが、一日中動いているうちに私は「母の日」をすっかり忘れてしまいました。

気づいたのは、夕陽が沈む頃の時間帯でした。朔日峠を越えて家に帰る途中だったので、大急ぎでUターンし、浦川原のコンビニに飛び込みました。そこで購入したのはカーネーションではなく、小さな鉢植えの花でした。

花の名前は憶えていませんが、値段はたしか三百五十円だったと思います。プレゼントをぎりのぎりのセーフで用意できたのでホッとしました。

家に入って、母に、「はい、母の日のプレゼント」そう言って渡すと、母は、「まあ、ありがとね」と言い、その後、「きれいな花だね。高いもん、もうしゃげねえね」と言ったのです。

たぶん、私は「そんがに高くなかないよ」と言ったと思うのですが、ドキッとしました。母に値段のことを訊かれて、鉢の中に刺してあった値札を取ってなかったことを思い出したからです。私は、さりげな

く値札を抜きました。

さて今年の母の日です。七か月欠かさず行っている母への朝の挨拶を済ませた後、私は事務所で一時間ほど原稿書きをしました。日曜日とはいえ、やるべきことがいくつもあり、原稿書きはその一つでした。

母のことを再び思い出すことになったのは、その後、訪問活動をしていて、下子さん宅でお茶をこ馳走になったときでした。

お茶とともに出していただいた食べ物のお話になり、「漬物も煮物も、あんたんちの味付けは抜群だね」という話をしたところ、「お宅のおばあちゃんこそ味付け、うまかったことね」とほめていただきました。最初は、遠慮して、「いやー、そんなことないわね」と言っていたのですが、いつの間にか、「確かに、赤飯なんかはちよっとした塩加減がわかっていて、他の人の赤飯では味わえない、いい味出していたね」と調子づいていました。

その場では、母のことだけでなく、尾神の「酒屋」（屋号）のかあちゃん（故人）など、私が知っている何人かの味付けの「プロ」のことで話は盛り上がりました。大根や竹輪などの味付けひとつで、人を満足させる力を持っているって素敵です。

今年の母の日は、母へのプレゼントを用意しませんでした。これまで、毎年のように贈られてきた愛知県在住の弟からのプレゼントもありませんでした。母への電話も無しでした。形のあるプレゼントを仏壇に供えるという手もありましたが、しませんでした。「それはさみしいね」と言う人があるかも知れませんが、でも、亡くなって以降の「母の日」は、母を思い出し、母のことを語り合つのが一番だと思つています。

今年は朴の葉がすでに大きくなりました。母の得意料理の一つ、朴の葉に包んだ赤飯をわが家の田んぼの畔に座って食べてみたくなりました。

大口昭治さんの水彩画にうっとり



板倉区の大口昭治さんの回顧展を観てきました。山菜、果物、風景などの作品にうっとりしました。入口付近で、写真を撮っていたら、受付の人たちの姿も入りました。



上のイラストがそれです。

市政と県政を語る会

馬場県議も参加します

日時:5月25日(木)18時半～

場所:市民プラザ第2会議室

主催:日本共産党上越市議団

上越地域各消防署における

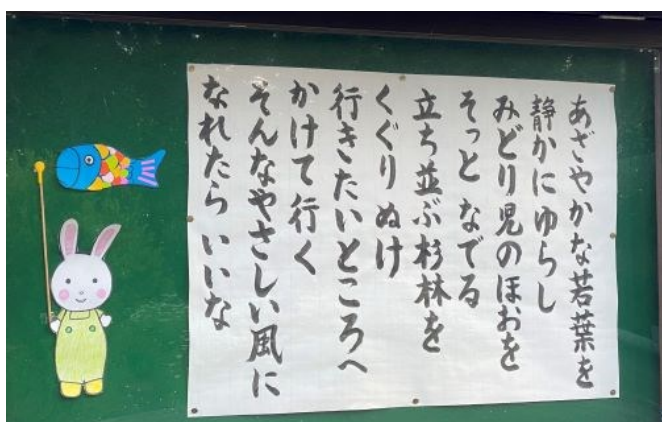
空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	5月10日(水)	5月17日(水)
上越南消防署	0.050	0.053
上越北消防署	0.043	0.047
新井消防署	0.040	0.043
頸北消防署	0.047	0.050
頸南消防署	0.067	0.067
東頸消防署	0.047	0.040
名立分遣所	0.050	0.060
高士分遣所	0.047	0.050

善長寺の最新掲示板



私の地元にある善長寺の掲示板がかわりました。

あざやかな若葉を静かにゆらし、みどり児の頬をそっとなでる。立ち並ぶ杉林をくぐりぬけ、行きたいところへかけて行く。そんなやさしい風になれたらいいな。

言葉も良いですが、左の折り紙も素敵です。